はじめに

「和歌」と「文学史」に関して入試に必要な知識を、本講座で効率よく習得しましょう。

第一～五講では、和歌の基本知識、修辞技法などをじっくり解説します。その上で、演習問題に取り組み理解を深める構成にしてあります。ちなみに第三講は、第一・二講で学習した内容の【応用演習問題】（おもに国公立の記述問題）です。国公立大学志望以外の方も理解を深めるためにチャレンジしてください。

第六～八講では、「文学史」を扱います。入試で問われやすいことに焦点をおいて解説します。「自分で勉強しようとしても、量がたくさんありすぎて、何をどう覚えるべきなのかわからない」という人は、ぜひ本講座を活用してください。演習問題もたくさんありますので、問題を解きながら覚えていきましょう。文学史は配点が低い可能性が高いですが、１・２点の差で合否が決まってしまうのも現実です。文学史は覚えれば確実に得点できる箇所ですから、１・２点に泣くことがないよう、しっかり仕上げておきましょう。

なお、「文学史」（第六～八講）は、ゼロの知識からでも受講可能ですが、「和歌」（第一～五講）に関しては、「文法」と「基本的な読解ルール」は理解できているものとして授業を行いますので、「古文～文法編～」と「スタンダードレベル古文～読解編～」の授業を受講してから、和歌の講義を受講することをオススメします。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

予復習・授業の受け方について

予習は第三講、第五講の問1～4のみです。
その他の講は予習なしですので、テキストをお手元に準備した上で動画をスタートさせて受講してください。
テキスト中に演習問題がありますが、講義中に問題を指定しますので、その都度該当問題を適宜解いてください。
予習があるものに関しては、予習が終わればなるべく時間をあけずに該当講座を受講しましょう。

講義中に数種類の色を使って板書をしますが、色をそろえる必要はまったくありません。
赤色だけでも、黒一色でもかまいませんので、ご自分のお好きな書き込み方法で。

講義を見終えたら、復習を必ずしてください。
理解ができれば、あとは覚えこむまで何度も復習してください。

復習が終われば、後ろにある**「復習問題」**を解きましょう。
復習問題は何度でもできるように、答えは直接書き込まないことをおススメします。
万一間違えた場合は、テキストの該当箇所に戻って復習をしてから、再度「復習問題」を解き直しましょう。
記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してくださいね。

それでは始めましょう！

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目次

第一講　「和歌」の基礎知識／枕詞 …… p. 4
第二講　掛詞／様々な修辞技法（「隠し題」など） …… p. 14
第三講　枕詞・掛詞などの〔演習編〕 …… p. 26
第四講　序詞／縁語 …… p. 36
第五講　縁語〔演習編〕／引き歌／その他の問題傾向 …… p. 44
第六講　文学史❶ …… p. 58
第七講　文学史❷ …… p. 80
第八講　文学史❸ …… p. 102

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講「和歌」の基礎知識／枕詞

1　和歌の基本知識

①**和歌〈＝三十一(みそひと)文字／大和歌〉の構造**

初句	二句	三句（**腰の句**）	四句	五句（結句）
上の句（**本**(もと)）			下の句（**末**(すゑ)）	

②**句切れ…各句末のどこかが文末の形**になっていたら、その部分で「**○句切れ**」という。

〈見つけ方〉以下の四つのいずれかの形が各句末にないか確認する。

a　**終止形**
b　**命令形**
c　**終助詞**（ばや・なむ・てしがな・にしがな・もがな…等）
d　**係り結びの「結び」**
※ただし、（各句末のいずれかの）「体言」で文の終わり（＝そこが句切れ）になっている場合もあるので注意。

（例）月見ればちぢにものこそ悲しけれ我が身ひとつの秋にはあらねど

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

③**歌枕**…和歌に詠みこまれる**景勝の地**。多くは伝承的に**名所**とされている。

④**連歌**…二人で応答して上の句に下の句を添え、一首の短歌をつくること。またそうしてできた和歌。
また二人もしくは数人で、短歌の上の句、下の句を交互につくって長く続けるもの。

⑤**腰折れ**…**下手な歌のこと**。
（＊第三句＝腰の句　三句目が悪ければ次につなげにくい。）

問1　和歌「昔より頼みきぬればもろともに思ひぞ沈む波の底まで」の句切れとして正しいものを、次の中から選べ。

ア　二句切れ　イ　三句切れ　ウ　四句切れ　エ　句切れなし

問2　和歌「こころみに雨も降らなむ宿すぎて空ゆく月のかげやとまると」は何句切れか。次の中から選べ。

ア　初句　イ　二句　ウ　三句　エ　四句　オ　句切れなし

問3　和歌「この春の別れや限りとまる身の老いて久しき命ならねば」の句切れはどこにあるか。次の中から選べ。

ア　初句　イ　二句　ウ　三句　エ　四句　オ　句切れなし

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問4　次の傍線部には「白河の関」「逢坂山」などがあるが、これらを文学研究の上で一般的に何と呼ぶか。漢字二字で答えよ。

…一方では詩人＝旅人は<u>文化的記憶の目印となる詩的場所</u>を積極的に捜し出しながら…

問5　和歌の上の句と下の句を別人が掛け合いで唱和する文学形式を何というか、漢字二字で書け。

問6　次の空欄に入るべき和歌の修辞技巧に関わる語句を後の語群から選べ。

〈中略〉～鳴海潟、不尽（ふじ）の高嶺の煙、浮島が原、清見が関、大磯小磯の浦々、～武蔵野の原、塩竈（しほがま）の和（な）ぎたる朝景色、～木曾の桟（かけ）橋、心のとどまらぬかたぞなきに、猶西の国の［　　］を見まほしとて、～難波を経て、須磨・明石の浦ふく風を…〈以下略〉

ア　歌枕　　イ　縁語　　ウ　掛詞　　エ　序詞　　オ　名所

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

2　枕詞

通常五音（＝初句か三句）。訳さない。特定の語を導く。

☆☆☆

●**あしひきの**【足引きの】＝**山**・峰(を)・岩・木(こ)・あらし　〈　　系〉

●**ひさかたの**【**久方の**】＝天・月・光・空・日・雲・都　〈　　系〉

●**からころも**【**唐衣・韓衣**】＝着る・裁つ・裾・袖　〈　　系〉

●**くさまくら**【**草枕**】＝**旅**・結ぶ

●**ちはやぶる**【千早振る】＝**神**・うぢ

●**たらちねの**【垂乳根の】＝**母**・親

●**ぬばたまの**【射干玉の】＝髪・墨・黒・夜・夢・月　〈　　系・　　系〉

●**うばたまの**【**烏羽**玉の】＝黒・闇・夜・夢　〈　　系・　　系〉

●**あづさゆみ**【**梓弓**】＝いる・ひく・はる・そる・本・末・弦(つる)

●**あらたまの**【**新**玉の・荒玉の】＝年・月・日・春

☆☆

●**あをによし**【**青丹よし**】＝**奈良**

●**しろたへの**【**白**栲の】＝袖・衣・袂(たもと)・雲・雪・波　〈　　系・　　系〉

●**くれたけの**【呉**竹の**】＝ふし・うきふし・夜・世

●**はるがすみ**【**春霞**】＝**春日**・たつ・井・よそに

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

☆

●あかねさす【**茜さす**】＝日・昼・紫

●いはばしる【**石走る**】＝滝・垂水・近江（淡海）

●うつせみの＝人・命・世

●たまきはる＝命・世

●もののふの【物部の・武士の】＝八十（やそ）・宇治・矢野・矢田

●ももしきの【百敷の・百磯城の】＝大宮

●いそのかみ【石上】＝ふる

●しきしまの【敷島の・磯城島の】＝大和・日本（やまと）

※「敷島の道」＝和歌の道・歌道

問１　次の和歌の傍線部のように「たまきはる」は「命」にかかる。このような修辞法を何というか、答えよ。

<u>たまきはる</u>命をあだに聞きしかど君恋ひわびる年は経にけり

問２　次の文は「雲居とはなれさへ知るや久方の空踊りする鳥にもあるかな」の和歌についての説明である。適切であればA、不適切であればBの符号で答えよ。

この歌の中に用いられている「久方の」という言葉は「空」にかかる枕詞である。

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問３　次の空白部［x］・［y］には枕詞が入る。適切なものを後の中からそれぞれ一つずつ選べ。

［x］としの三年を待ちわびてただ今宵こそ新枕（にひまくら）すれ
［y］引けど引かねどむかしより心は君によりにしものを

ア　あしひきの　　イ　あづさゆみ　　ウ　あをによし
エ　あらたまの　　オ　あさぼらけ

x＝　　　y＝

問４　「ここらの年ごろに、［　］夢ばかりだになくおぼほれて、…」の空欄には「夢」の枕詞が入る。最も適当なものを次の中から選べ。

ア　あしひきの　　イ　うつせみの　　ウ　ちはやぶる
エ　くさまくら　　オ　ぬばたまの

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問5　次の空欄［Ⅰ］～［Ⅲ］には、それぞれ枕詞が入る。最も適当なものを次の中から選べ。

東路や、［Ⅰ］光のどかに照らす…〈中略〉…さらに道々の事を興し給うて、［Ⅱ］道行き人も、落ちたるを拾はず、［Ⅲ］夜も、戸ざしせぬ世なりけり。

a　ちはやぶる　　b　うばたまの　　c　ひさかたの
d　たまぼこの　　e　くさまくら

Ⅰ＝　　　Ⅱ＝　　　Ⅲ＝

問6　「あをによし」は「奈良」にかかる枕詞である。では、「あをによし」の「あをに」とはどのような意味か。次の中から最も適切なものを選べ。

ア　青い色のこと　　イ　青い空のこと　　ウ　青い土のこと
エ　青い膚のこと　　オ　青い水のこと

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　復習問題

①「天つ風雲の通ひ路吹きとぢよをとめの姿しばしとどめむ」の和歌は、何句切れか。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　初句切れ　　イ　二句切れ　　ウ　三句切れ
エ　四句切れ　　オ　句切れなし

②「関越えて今日ぞ問ふとや人は知る思ひたえせぬ心づかひを」の和歌は、何句切れか。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　初句切れ　　イ　二句切れ　　ウ　三句切れ
エ　四句切れ　　オ　句切れなし

③「和歌の浦にかきとどめたる藻塩草これを昔のかたみとは見よ」の傍線部は、古歌に詠まれた景勝地であるが、このような名勝を表す言葉として最も適当なものを次の中から選べ。

ア　歌枕　　イ　歌草子　　ウ　枕詞
エ　縁語　　オ　歌題

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④　「忘れてもまた手にとらじあづさ弓もとの家路をひき離れては」の歌の表現について述べた次の文の［　］に入る語を後の中から選べ。

「あづさ弓」は、万葉集の時代に流行した［　］と呼ばれるもので、後の「もと」「ひき（引き）」を導く働きをしている。

ア　歌枕　　イ　序詞　　ウ　本歌取り　　エ　枕詞　　オ　比喩

⑤　次の空欄１・２に入る枕詞をそれぞれ後から選べ。

［　１　］年立ちかへる朝より待たるるものは鶯の声　　素性法師（『拾遺集』）

昨日こそ年は暮れしか［　２　］春日の山にはや立ちにけり　　山部赤人（『拾遺集』）

ア　ぬばたまの　　イ　はるがすみ　　ウ　やくもたつ

エ　あらたまの　　オ　ひさかたの

１＝　　　　２＝

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑥　次の空欄［A］と空欄［B］に入る枕詞の組合せとして、最も適切なものを後の中から選べ。

「［A］大和心を人とはゞ朝日に匂ふ山櫻花」…〈中略〉…万葉集の「［B］奈良の都はさく花のにほふが如く今盛りなり」…

ア　A　敷島の　　B　青丹よし
イ　A　日の本の　　B　神風の
ウ　A　青丹よし　　B　百敷の
エ　A　百敷の　　B　敷島の
オ　A　神風の　　B　日の本の

⑦　「［　］光のどかにてらす御神の御事とかや…」の［　］に入る最も適当な語を、次の中から一つ選べ。

ア　あしひきの　　イ　たらちねの　　ウ　ぬばたまの　　エ　ひさかたの

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

模範解答

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第一講　模範解答

1

問1　ウ
問2　イ
問3　イ
問4　歌枕
問5　連歌
問6　ア

2

問1　枕詞
問2　A
問3　x エ　y イ
問4　オ
問5　Ⅰ c　Ⅱ d　Ⅲ b
問6　ウ

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答解説

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第一講　解答解説

〔解説〕

① 三句目「吹きとぢよ」の「とぢよ」が、ダ行上二段活用動詞「閉づ」の命令形。よって、正解はウ。

② 「今日ぞ問ふとや人は知る」の係助詞「や」と「知る（連体形）」で係り結びが成立しており、「知る」の部分がちょうど三句目の末となっている。よって、正解はウ。「今日ぞ問ふ」の部分も係り結びは成立しているが、「問ふ」の部分が句末ではないので、句切れにはならない。

③ 古歌に詠まれた景勝地のことを「歌枕」という。よって、正解はア。

④ 「もと」「ひき（引き）」を導く五音の「あつさ弓」は「枕詞」である。よって、正解はエ。

⑤ 1は、下が「年」なので「あらたまの」のエが正解、2は、下が「春日」なので「はるがすみ」のイが正解。

⑥ Aは、下が「大和」なので「敷島の」である。この時点でアが正解とわかる。ちなみに、Bの下は「奈良」なので「青丹よし」である。Aがわからなくても、Bで正解を導ける問題でもある。

⑦ 選択肢がすべて五音で枕詞とわかる。空欄の下が「光」なので「ひさかたの」のエが正解。

〔解答〕

① ウ　② ウ　③ ア　④ エ　⑤ 1 エ　2 イ　⑥ ア　⑦ エ

© RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。